

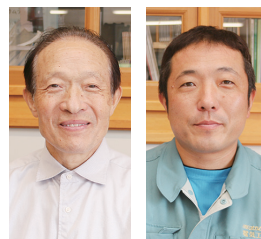
株式会社 オカムラーフ



●屋根板金工事

- 代表者名 代表取締役会長 岡村 三男
- 設立年月日 1988年(昭和63年) 10月8日
- 所在地 〒403-0011 山梨県富士吉田市新倉2871
- TEL 0555-23-8374
- FAX 0555-23-8375
- E-Mail roof@cello.ocn.ne.jp
- URL http://www.okamuraroof.co.jp/
- 業 種 屋根・板金・電気工事業
- 資本金額 500万円 ■ 従業員数 7人

インタビュー

会長
岡村 三男 (左)社長
岡村 友和 (右)

テーマ

たった1日で完成する屋根板金工事サービス

住宅リフォーム市場の「より早く」というニーズに応えるために、今後主流となる嵌合立平葺屋根の加工設備を導入。内製化に成功し、受注から施工まで最短1日で行う屋根板金工事サービスを確立した。



今回導入した嵌合立平葺屋根の加工ライン

オカムラーフは富士北麓地域をメインに事業を展開している創業70年の老舗屋根板金業者だ。新築物件を中心に工事を行ってきたが、2014年の記録的大雪を機にリフォーム工事の需要が拡大。その際、屋根が壊れて困っている施主や地元工務店からの「より早く」という声を直に聞き、それに答えられるサービスの提供を可能にしようと動きだした。

最短1日で完成できる屋根板金サービスを提供することを目標に掲げ、これから主流になると見込まれる嵌合立平葺屋根の内製化に取り組んだ。

嵌合立平葺屋根は、鋼板のスプリングバック（塑性加工）を活用したはめ込み式で、合わせを軽く踏んではめ込むので短時間で施工することができる。軽量なのに強度があり、地震にも強いといわれ、太陽光発電設備を載せるのにも適していて、太陽光発電の普及に伴い需要が拡大している。ま

たりフォームでも嵌合立平葺屋根に変更するケースが増えている。

同社では現在主流となっている横長尺葺屋根は既に内製化しているが、嵌合立平葺屋根については外注加工業者に発注し、加工した既製品を使用していて、加工業者への発注から納品まで時間がかかり、施工完了まで10日程度の時間を必要としていた。そこで自社で加工できる体制を整えるために、嵌合立平葺屋根専用の加工ラインを新たに導入することにした。

「嵌合立平葺屋根は今後さらなる需要増加を見込むことができ、何より『早く安く丁寧』をモットーとする当社として、より顧客ニーズに応えていくためには内製化が必要だと判断しました」と岡村三男会長は力を込める。

導入した加工ラインで試作品の製作を行いながら、加工～施工までの作業時間を計測したところ、4人作業で100㎡の作業時間は、目標として掲げていた値とほぼ同じ7.46時間を達成し、内製化を実現した。

「これで最短1日で受注から施工まで完了する革新的なサービスを提供できるようになりました。雪害などで早急な修繕が必要な場合も、しっかりと応えることができます」と岡村会長は自信に満ちた表情を見せる。

顧客サービスの向上と事業の効率化を実現



◀ 嵌合立平葺屋根は緩やかな勾配ですっきりとしているのが特徴

今回実現した最短1日で施工できる屋根板金工事サービスは、今年2月から始動。受注から加工、施工まで一貫して自社で行えるようになった。屋根材を遠くから運搬する必要がないので、運搬時の振動による擦り傷のリスクなどもなくなり、多くのお客様から喜ばれている。

また屋根材を自社ですぐに用意できることから、屋根材の納品待ちで工事を中断させる心配もなくなり、さらに加工業者に依頼するよりもコストを

抑えることができるため、価格面でも競争力を高めることができた。

社内的にも効果が出ている。普段は外の作業が中心だが、雨や風が強い日は外仕事ができないため、その時間をどう有効的に使うかが課題だった。

「自社加工できるようになったことで工場内での仕事ができ、人を効率的に動かせるようになりました」と岡村会長は満足そうにほほ笑む。

新設備の導入は顧客サービスの向上、事業の効率化、どちらも叶えたのだ。



◀ 自社加工した屋根板金を施工中

3代目社長が就任、さらなる飛躍をめざす



◀ ルーフの工場を備えているオカムラ

昭和15年に創業した同社は、岡村会長が2代目になる。会長の代になってさまざまな改革に着手。会長は「初代の時代は福利厚生がなかったのを人を募集してもなかなか集まらず、職人を育てるのも難しい状況でした。そこで私の代になってからは福利厚生や社会保障を整備し、週休制も取り入れ、人も定着するようになりました」と振り返る。

従業員の資格取得も積極的にバックアップしていて、建築士や技能士、施工管理技術士などの資格や安全教育講習を積極的に受講させるとともに、資格試験の費用や試験日の出勤手当も会社が負担。「こういった取り組みが従業員の意識の高揚につながっています」と自信を見せる。

今では5人いる職人全員が営業、現場調査、屋根加工、施工まで一貫して行うことができ、同社の強みとなっている。

また「板金工事店でこれだけの機械設備やクレーンを自社で持っているところはあまりないと思い

ます」と会長は胸を張る。

今回の新設備の導入も、これまでの仕事への姿勢や意識、取り組みがあったからこそ踏み切ることができたという。

昨年1月には3代目として、息子さんの岡村友和さんが社長に就任した。友和社長は「新たな設備が整い、どんな仕事も受けられる体制ができ、従業員の意識もさらに高くなったと思います。これまでの仕事に新設備導入分をさらに上乗せしていけるように、新しいニーズにも積極的に応えていきたいと思います」と意気込む。

代表権はまだ会長にあるが、順次

引き継いでいく予定で、会長は「社長は次の代として設備投資や社員育成など、いろいろ考えていると思います。次代にはさらに成長して、『屋根工事といえばオカムラーフ』と一般の方にもすぐに思い浮かべてもらえるような会社にしてほしいです」と今後を楽しみにしている。

常に高い意識とプライドを持って仕事に取り組み、多くの信頼を得ているオカムラーフ。地域になくてはならない企業として、さらなる飛躍が期待される。



◀ 社長と工場長が加工を担当している